研究ノート

ダグール語の名詞述語

Nominal Predicate of the Dagur Language

山　田　洋　平
（東京外国語大学大学院博士後期課程／日本学術振興会特別研究員DC2）
YAMADA Yohei
（Tokyo University of Foreign Studies / Research Fellowship for Young Scientists of JSPS）

キーワード：ダグール語，名詞述語，コピュラ，人魚構文
Keywords: Dagur, nominal predicate, copula, mermaid construction

目　次

1. はじめに
2. 名詞述語
　2.1. 名詞述語とは
　2.2. モンゴル語族の名詞述語
3. ダグール語の名詞述語
　3.1. 概要
　3.2. 名詞述語文の意味
　3.3. モンゴル語との異同
　　3.3.1. コピュラ動詞の使われ方
　　3.3.2. 名詞述語文によく用いられる要素
　3.4. 名詞述語と所在文
　3.5. 人魚構文
　　3.5.1. 人魚構文とは
　　3.5.2. ダグール語の人魚構文
　　3.5.3. 否定文
4. おわりに

1. はじめに

ダグール語[1]の基本的な構造は、モンゴル語を始めとする他のモンゴル語族の言語から大きく逸脱することはない。名詞述語を擁する名詞述語文についても基本的にはモンゴル語によく似ていると言えるが、子細に見ればモンゴル語との差異を指摘することができる。本稿では、こうしたマイクロバリエーションに注目し、コピュラや名詞述語の特徴を記述する。さらにモンゴル語に見られる名詞述語によるモダリティ的表現（ここではこれを人魚構文と呼ぶ）が、ハイラル方言を除くダグール語ではあまり見られないことについても論じる。本稿によって示される事実により、名詞述語のみならぬ多方面からのダグール語の特徴づけの要因を探る一助となるばかりでなく、モンゴル語族全体を見渡しての比較研究のきっかけを提供することになろうと思う。

主節以外の節における述語の現れを見る限り、一般に述語として動詞がこれを担うのが典型的であると思われる。本稿で言う名詞述語とは、この典型に当てはまらぬ名詞が主節の述語を担うケースについて扱うものである。例えば、次のような「ＡはＢである」のような文が該当する。

（1）*en* *kuu* *minii* *baawaa-minj.*
this person 1SG.GEN father-1SG [2]
この人は私の父です。

本稿では次節において名詞述語およびそのモンゴル語族における現われを概観した上で、3節において本題となるダグール語の述語人称について述べる。4節でまとめ、今後の課題を示す。

なお、本稿で挙げる例文は、表記を筆者の恣意で改めた部分があり、かつ例文番号、分析、グロス、和訳、強調のための下線などは特に断りの無い限り筆者による。例文の出典の無いものは、ハイラルおよびチチハル地域における筆者調査により得られたものであることを示す。

1　ダグール語はモンゴル語族に属する言語で、その話者は中華人民共和国内モンゴル自治区フルンボイル市から黒龍江省に分布している。モンゴル諸語としては最も東部に位置し、ツングース諸語のマンジュ語やソロン語といった言語と接触してきた。現代においてはモンゴル語や漢語からの影響も強い。中国の民族識別工作に基づくダグール族は人口およそ13万人だが、そのうちどれほどがダグール語話者であるかその全体像はよくわかっていない。都市部においては若者のダグール語保持率は低い印象だが、農村部はこの限りではない。方言はチチハル、ブトハ、ハイラル、新疆に分けられるが、3.5.2 での議論を除けば本稿において問題となる有意な方言差は今のところ見いだせない。

2　例文のグロスに用いる略号は以下の通り。-: 接辞境界 / =: 接語境界 / +: 複合語の語境界 / 1, 2, 3: 1st, 2nd, 3rd person / AI: ablative-instrumental 奪具格 / CAUS: causative 使役 / CONC: concessive 譲歩 / COND: conditional 条件 / DAT: dative 与位格 / EXC: exclusive 除外 / FUT: future 未来 / GA: genitive-accusative 属対格 / GEN: genitive 属格 / INS: instrumental 道具格 / LIM: limitative 限界 / NEG: negative 否定 / NPST: non-past 非過去 / PERF: perfect 完了 / PL: plural 複数 / PN: proper name 固有名詞 / PROP: proprietive 恒常的所有 / PTCP: participle 形動詞 / Q: question 疑問 / REFL: reflexive 再帰 / SFP: sentence final particle 終助詞 / SG: singular単数 / SIM: simultaneous 同時 / VOL: volitional 願望

グロスGAで示す属対格は、文中の使用を見れば属格的用法か対格的用法か判別することは容易である。しかし同形の形態素には1つのグロスを統一として用いると言う方針から、形態上区別できる場合を除きとくに区別をしない。

2. 名詞述語

2.1. 名詞述語とは

本稿で扱う名詞述語は、名詞述語文の述語を成す名詞類の語を指す。これを含む構文である名詞述語文は、益岡（2016）が日本語について「名詞を述語とする構文」として扱うもの[3]に倣って用いる。ただし日本語においては「形容詞（述語）文」との対立が問題になるが、本稿では基本的にこの対立を問題としない。詳しくは3.1節で述べる。

言語調査に必要な基本的文法事項を解説するDixon（2010: § 14）では、ここで言う名詞述語文をコピュラ文と無動詞文から成るとして説明している。その上で、これらの構文が表し得る意味をA1~A5, およびBの6段階の階層によって示している。階層は上（A1）へ行くほど典型的なものであるという。例えばA3の所有の意味は表すがA2の属性の意味を持たないといった関係は許されないといった包括関係を示すものである。こうした意味の階層については 3.2節でダグール語の例を挙げながら紹介する。

2.2. モンゴル語族の名詞述語

「AはBである」という意味を表す構文はモンゴル語族において一般に“A B”というように名詞類を並べることで成されると説明される。これはより厳密にいえば次のような事実を述べたものである。

(2) モンゴル語族における名詞述語文
① A（名詞述語文主語）B（名詞述語）いずれの項も格接辞が付されない
② コピュラは必須ではない

これらはモンゴル語族の大体において共通した特徴であるといえる。ただし①については格接辞が付されないのみで、必ずしも裸の形で現れるとは限らない。いずれの項も人称所属を付して現れうる（ただし両方に付されるということはなく、また再帰所属が付されることはない）。例えば次のように、所属人称を必須とするダグール語の例（3）a, b を参照されたい。a では名詞述語項に、b では主語項にそれぞれ所属人称が付されている。

(3) a. *ter* *kuu* *ečig=min*
that person father=1SG
あの人は私の父です
b. *meemee=šin* *seb=yee*
mother=2SG teacher=Q
あなたのお母さんは先生ですか

[3] 益岡（2016）はこれを略して「名詞文」と呼ぶが、本稿では名詞述語そのものが考察の中心であることから、名詞述語文と呼ぶ。

また②についても例えばハルハ・モンゴル語（以下では単にモンゴル語とする）においては存在動詞がコピュラ動詞として用いられることがある[4]。テンスやアスペクトの対立を表す場合や、副動詞形にして従属句として用いる場合に用いられる。モンゴル語では以下のように無標の非過去形でも現れ、「一時的状態」（橋本 2004）を表すという。橋本（2004）によれば「一時的状態」とは無標の「持続的状態」に対立するものであるが、「発話時の状況」という眼前の出来事を描写する場合も「一時的状態」に属すると説明される。次の例はその例に当たると思われる。

（4）*ene manai xonj bai-na*
this 1PL.EXC.GEN sheep to.be-NPST
これはうちの羊です Z.Dorj.txt.[5]

橋本（2004）の言う「持続的状態」は影山（2012）が（主に日本語について）言う「恒常的状態」に当たるものであると考えられる。モンゴル語ではコピュラとして存在動詞を用いることで、名詞述語文の「恒常的状態」による属性叙述を「一時的状態」の事象叙述へと投入する操作であると言えよう。

3. ダグール語の名詞述語

3.1. 概要

語類について、ダグール語とモンゴル語を始めとする他のモンゴル語族の諸言語は、同じ考え方で分類することができる。例えばモンゴル語に関する山越（2012）では、まず動詞語尾（定動詞接辞、形動詞接辞、副動詞接辞）が付される動詞とそれ以外に分類する。それ以外のうち格接辞が付されたり所属のカテゴリーを標示できる語を広く名詞類と見なし、それ以外を不変化詞類と呼ぶ（山越 2012: 40）。名詞類と不変化詞類の間に厳密な線引きをすることは容易ではないが、名詞類は語彙的な意味を有し独立性が高い語がこれに該当しやすい。こうした条件に見合う名詞類は、述語人称を付して文の述語たりうるという特徴も見せる。本稿で扱う名詞述語とはこうした主文の述語になる名詞類のことを指す。ここにはいわゆる形容詞的な語も含まれ、和訳からは「形容詞述語文」に見えるものも一緒くたに扱う。

ダグール語の名詞述語文も、（2）に述べたようなモンゴル語族一般の名詞述語文の構造と基本的に変わらない。名詞述語文における主語項と述語項はいずれも格接辞の付されない形式が用いられ、時制などの面で無標ならばコピュラが用いられることはない。

ダグール語における述語の認定の基準の一つとして述語人称の付与の可否が挙げられる。ダグー

4 他にもモンゴル語の mön や yum をコピュラであると見なす研究もある（橋本2004など）。何をもってコピュラと呼ぶかと言う問題もあるが、ここではダグール語で対応の形式のある存在動詞 bai のみを考える。なお本稿では、モンゴル語の存在動詞 bai、ダグール語の存在動詞 aa 等の表現でそれぞれ bai-x, bai-na; aa-bei といった動詞形の語幹形・代表形であることを示している。

5 例文は内モンゴル師範大学ジンガン氏作成のコーパスから引用したもので、例文末尾の .txt は出典となるファイルを指している。コーパスはウェブ上の小説や新聞記事から成る。

ル語の名詞述語には動詞述語同様の述語人称が付与される。

（5）*bii tuyaa=bie. gučin guareb-tii=bie*
1SG PN=1SG thirty three-PROP=1SG
私はトヤーです。33歳です

人称所属が付された形式にも述語人称は付される。

（6）*šii minii seb=min=š=ee*
2SG 1SG.GEN teacher=1SG=2SG=Q
あなたは私の先生ですか

動詞語尾に述語人称が付された場合の形式には方言差が著しく語尾との融合もとくに一人称単数においてよく起こるが、名詞述語に付される述語人称は基底の形式をよく保つ。

表1. ダグール語の述語人称

	単数	複数
一人称	=bi~=bie	=baa / =daa
二人称	=ši	=taa
三人称		（=sel）[6]

以下ではまず3.2節で Dixon（2010）の挙げる名詞述語文の意味階層をもとに、ダグール語の名詞述語文の表しうる意味を見る。3.3節ではモンゴル語との異同からダグール語の名詞述語の特徴をまとめる。3.4節では所在文について述べ、3.5節では人魚構文について述べる。

3.2. 名詞述語文の意味

表2. では Dixon（2010）の分類に加え、ダグール語における成立の可否を○×で示し、例を挙げる。

6 なお、三人称の場合は基本的に何も付されないが、主語が複数である場合に名詞類の複数接辞と同型の =sel が付されることもある。
ex）*guarben ugin want-sen=sel*
three girl to.sleep-PERF=PL
三人の娘は眠った
名詞述語でもこの要素が付されるのかどうかは不明である。普通名詞の裸の形にこの形式が付されても、単に名詞の複数形 -sel であると解釈されてしまうであろう。いわゆる形容詞的な意味の語が述語になる場合や（ex. ʔguarben ugin saikan=sul {three girl beautiful=PL}「三人の娘は美しい」、ʔter kuu akaa-tii=sel {that man big.brother-PROP=PL}「その人は兄がいる」）、人称所属が付された形式（ex. ʔted guč=min=sel {they friend=1SG=PL}「彼らは私の友達だ」）でも =sel が付されるか検証する必要がある。しかし動詞述語文でも =sel を付した文をこちらが提示するとコンサルタントからは不要だとされてしまうことが多く、使用頻度が低い（あるいは使用条件が明らかでない）ため検証できずにいる（「彼らは私の友達だ」の例では guč-sel=min {friend-PL=1SG} と訂正されてしまう）。

コピュラ文とはコピュラとして存在動詞aaが用いられるもの（cf. 3.3.1）、無動詞文とはそれが用いられないものを指す。なお、表2. の分類におけるA3, A4 に現われるダグール語の名詞述語は格接辞が付されているものであると見なさない[7]。

表2.　名詞述語文の表し得る意味（Dixon（2010: 表14.1）をもとに作成、例は筆者による）

	Dixon（2010）の分類	コピュラ文	無動詞文	例（ダグール語）
A1	同定Identity	○	○	*bii nar-ii kuu=bi* 1SG sun-GA person=1SG 「私は日本人だ」
A2	属性Attribution	○	○	*minii biao=mini guaidaan* 1SG.GEN watch=1SG slow 「私の時計は遅れている」
A3	所有Possession	○	○	*ter nek debtlien biteg, šiniig=yee* that one notebook book yours=Q 「あの一冊のノートはお前のか」
A4	受益Benefaction	○	△	※下記参照
A5	所在Location	○	△	※注8参照
B	存在Existence	○	×	

受益の意味についてはダグール語では tualaan「～ために」という後置詞的な語で表されるが、これを述部とするような用例は得られていない。しかしこの後置詞は名詞類に由来するもので無動詞文においても成立する可能性もあると思われる。次のモンゴル語における類例を参照されたい。

（7）*malčin xün-ii sanaa setgel xün mal xojor-iin tölöö.*
herder person-GEN thought heart person livestock two-GEN for
牧民の心は人と家畜のためだ　D_namdag_negen_ekipajid_bolson_yavdal.txt

無動詞文ではA5所在とB存在の意味を表さないというDixon（2010）の記述通り、ダグール語ではこれらの意味を表すのに少なくとも「A（存在者）B（存在の場所）」「A（存在者）」といった形式はあまり用いられない[8]。

7　表中の例文 šiniig「お前のもの」に見るような所有の形式や、tualaan「のために」のような後置詞的な語を格接辞と認める立場もありうるが、本稿ではそのような立場を取らない。šiniig「お前のもの」はさらに後ろに格接辞を付すことが可能な形式である。tualaan「のために」は後置詞的な語であり、主要部の属格形を要求するものである。筆者は格接辞が連続して付されるいわゆる「二重格」は体系として認められないと考えているため、これらの理由から格接辞のパラダイムに含めるのは不適当であると判断する。

8　チチハル、ブトハ、ハイラルでは見いだせないが、新疆ダグール語には次のような例が見られる。

ex）*tednii ger-in bas ail-ii hoo duand-in*
they.GA house-3 also village-GA all middle-3
彼らの家は村の真ん中にある（Yu. et al. 2010: 202）

これはコピュラを伴わずに所在を表している例であると思われるが、周辺のカザフ語に構造的影響を受けたものであろうか。この場合のduand「中」は後置詞的な語であると考えられる。

3.3. モンゴル語との異同

3.3.1. コピュラ動詞の使われ方

2.2節の（4）で見たように、モンゴル語ではコピュラとして無標の存在動詞 bai が名詞述語文に用いられることで「一時的状態」を表す用法がある。他方、ダグール語は無標（非過去時制＋その他の文法標識無し）の存在動詞がコピュラとして用いられることはない。モンゴル語と同様、（8）のように過去の形式であればコピュラとして存在動詞aaを取る。（9）のように「一時的状態」を表す場合には、存在動詞aaは進行アスペクトの形式を取らなければコピュラとして用いられない。

（8）*tednii neu-ǰ ir-gu erin-d bii ušken aa-sen=bi*
they.GA to.move-SIM to.come-PTCP time-DAT 1SG small to.be-PERF=1SG
彼らが引っ越してきたとき、私は小さかった　恩和巴図等编（1985: 15）

（9）*šii ul dialle-ten=šii erin bas erd aa-ǰ+aa-bei*[9]
2SG NEG to.be.late-PERF=2SG time yet early to.be-SIM+to.be-NPST
お前は遅れていないよ、時間はまだ早いんですよ　恩和巴図等编（1985: 9）

3.3.2. 名詞述語文によく用いられる要素

ダグール語の名詞述語文において、主語と述語の間によく用いられる要素がある。次の例文（10）（11）に見る utkaa（~ utkai ~ utaa ~ utgai..）である。

（10）*bii uš+udur ʂandien-neer aw-ǰ ačir-se-m utkaa biteg-min*
1SG yesterday shop-AI to.take-SIM to.bring-PERF-1SG namely book-1SG
私が昨日店で買ってきたのは本だ　山田（2016: 243）

（11）*ter kuu utkaa ene kek-ii ečig-in*
that person namely this child-GA father-3SG
あの人はこの子のお父さんだ　山田（2016: 244）

（10）のように補文節が主語として機能する場合、これを明示するのにモンゴル語では人称所属の要素が使用される。現われる位置を見ると、一見これに似た機能を有するのがutkaaであるようにも思える。しかしutkaaは（11）のような短い文（比較的単純な主語項）にも用いられ、補文節が主語を成すことを表すための専用形式であるとは言えない。

主語の後ろに現われるこの要素は、モンゴル語の主題標識 bol や bolbol にも似るが、条件形式（「ならば」）に由来する主題標識としてダグール語にはaas, aagaas などの対応要素がある。utkaaの機能はむしろ後続の名詞述語主語項と分け、後者を焦点化することにあるのではなかろうか。

9　dialle-ten「遅れた」の -ten は -sen の異形態。順行同化によって、この環境では -len~ -tenが現れうる。

河西回廊地域のモンゴル語族の言語では、漢語の「是」(「〜である」) に由来する標識がこれに類する用法で用いられる例もあるようであり、意味・機能面での関連性が思われる。

3.4. 名詞述語と所在文

3.3.1. で見たように、有標の名詞述語文であれば存在動詞aaがコピュラとして用いられる。ハイラル・ダグール語の例文集である塩谷(1991)に挙げられる用例から存在動詞aaの使われを数えると、次の表3に見るような分布が観察できる。例文数の少なさと偏りは認めなければならないが、無標の非過去の形式でaaが用いられにくいという傾向は見出すことができよう。

表3. 動詞aaがとる形式の用例数

動詞aaに後続する接辞	形式	用例数
非過去	aa-wei, aa-n	0
非過去進行	aa-ǰ+aa-wei	11
過去	aa-sen	20
過去進行	aa-ǰ+aa-sen	0

ところでこの表2. で見るaaの用例の中には、Dixon (2010) の言う所在文も含まれる。

(12) *ter* *arben* *doloo* *bol-tl-oo* *hoten-d* *aa-sen*
that ten seven to.become-LIM-REFL town-DAT to.be-PERF
彼は17歳になるまで街にいた 塩谷 (1991: 59)

(13) *šii* *haane* *aa-ǰ+aa-wei=š=ee*
2SG where to.be-SIM+to.be-NPST=2SG=Q
お前は今どこにいるんだ 塩谷 (1991: 59)

しかしこれらは、(8) (9) と同等の名詞述語文であるとは見なせない。(8) (9) は、次の (8') (9') のようにaaを除けば無標の名詞述語文として成立するのに対し、(12) (13) からaaを除いた (12') (13') は非文となるからである。

(8') a. *bii* *ušken* *aa-sen=bi*
1SG small to.be-PERF=1SG
私は小さかった

b. *bii* *ušken=bi*
1SG small=1SG
私は小さい

(9') a. *erin* *erd* *aa-ǰ+aa-bei*
time early to.be-SIM+to.be-NPST
時間は早い

b. *erin* *erd*
time early
時間が早い[10]

[10] その意味するところとしては、a.が一時的な状態であるのに対してb. は恒常的な状態を示しているらしい。

（12’）a. *ter hoten-d aa-sen*
that town-DAT to.be-PERF
彼は街にいた

b. *ter hoten-d
that town-DAT

（13’）a. *šii haane aa-ǰ+aa-wei=š=ee*
2SG where to.be-SIM+to.be-NPST=2SG=Q
お前は今どこにいるんだ

b. *šii haane
2SG where

こうした振る舞いの異なりから、(8)（9）のような文については名詞述語文がテンス的またはアスペクト的な有標性を示すためにコピュラを導入したものと見、(12)（13）のような所在文については動詞述語文であると考える。

なお、こうした所在文において、テンスやアスペクト的に無標の存在を示す語としては bei がある。この語の用例は塩谷（1991）に22例見られる。これが表2における非過去の用例数0を埋める表現となっていると見ることができよう。

（14）*baawaa=šini haane bei*
father=2SG where exist
あなたのお父さんはどこにいますか　塩谷（1991: 53）

これは「ある」といった意味の面や述語として頻繁に使用されることから動詞として記述されることもある語である（恩和巴図等編（1984: 74）など）。しかし、動詞活用をしないという点で、筆者は消極的に名詞類であると見るべきではないかと考える。動詞や名詞類とせず不変化詞に分類する考え方もあると思われるが、(14）で bei は欠くことができない述語を成しており、次の例（15）に見るように格接辞を付すことも可能であることから、不変化詞と見なすには至らない。

（15）*nad bei, tendee edee čieyaa xaan bəi-yi-ni med-gu uwei=bi.*
1SG.DAT exist but now tea.leaf where exist-GA-3SG to.know-PTCP NEG=1SG
私には茶葉がありますが、今どこにあるかはわかりません　恩和巴図等編（1985: 7）

これは表2. で Dixon（2010）が想定している「A（存在者）B（存在の場所）」型の名詞述語文とは異なるが、「A（存在者）B（存在）」という構造で B という存在を表す述語が存在の場所を表す項を取ることで表現される存在の構文であると言える。ただし、A1「同定」A2「属性」などの名詞述語と異なり、テンスやアスペクト的に有標の場合には存在動詞aaが用いられ、beiは削除される。

3.5. 人魚構文

3.5.1. 人魚構文とは

角田（2011）は「[節] 名詞 だ」という構造を持ち、節は動詞述語文と同じ構造を持っているが文は名詞＋コピュラで終わる次のような文を人魚構文と呼んでいる。(16) は日本語の例である。

(16) [太郎は名古屋に行く] 予定だ。
[太郎は今本を読んでいる] ところだ。
[外では雨が降っている] 模様だ。 角田（2011: 54）

これらは構造上は連体修飾節が名詞を修飾した形式のように見えるが、次のように日本語の例から統語上の振る舞いを見ると動詞述語文と同じであるという。

(17) a. [太郎の名古屋に行く] 予定は延期された（連体修飾節）
b. *[太郎の名古屋に行く] 予定だ
c. [太郎は名古屋に行く] 予定だ（人魚構文）

角田（2011）によれば、こうした人魚構文はモンゴル語などを含むアジアの言語にのみ見られる珍しい現象であるという。筆者は、モンゴル語における動詞の形動詞形＋xeregtei「〜しなければならない」+yostoi「〜するはずだ」+yum「〜するのだ」などの構造は、角田（2011）が想定する人魚構文に近いものであろうと考える。

3.5.2. ダグール語の人魚構文

ダグール語においては、とくにハイラル方言で次のような語が人魚構文の名詞部分として述語を担う。例とともに示す。

(18) kereg-tie {necessity-PROP}「必要だ」

bey-ee	*sain*	*bol-goo-yaa*	*gel-ees-ee,*	*dang-aa*	*ee-gu*
body-REFL	good	to.become-CAUS-VOL	to.say-COND-REFL	tabaco-REFL	to.quit-PTCP

kereg-tie=bie
necessity-PROP=1SG
健康になりたいなら煙草をやめなければならない 塩谷（1991: 67）

(19) duar-tie {preference-PROP}「好きだ」

bii	*suni*	*duand-aar*	*ǰagus*	*bat-gu*	*duar-tie=bie*
1SG	night	middle-INS	fish	to.catch-PTCP	preference-PROP=1SG

私は夜中に魚釣りするのが好きだ 塩谷（1991: 73）

（20）sanaa-tii {thought-PROP}「つもりだ」

bii *nekend* *ič-gu* *sanaa-tii=bie*

1SG together to.go-PTCP thought-PROP=1SG

私は一緒に行くつもりだ 塩谷（1991: 80）

（21）maged {possible}「かもしれない」

ter *ger-t-ee* *hari-ǰ* *anie-ǰ* *ul* *šad-gu* *maged=aa*

that house-DAT-REFL to.return-SIM to.spend.the.New.Year-SIM NEG can-PTCP possble=SFP

彼は家に帰って新年を過ごせないかもしれない 塩谷（1991: 88）

いずれも形動詞接辞 -gu を伴うもので、完了形動詞形 -sen を伴う例は無い（maged については過去の可能性を述べる用法もありうるか）。（18）~（20）は -tii {-PROP} を伴う表現である（（18）（19）で -tie という形式で現れている理由は不明）。（18）,（20）,（21）はモダリティ的な表現であると言いうるが、（19）については怪しい。（18）,（20）,（21）については動詞の語尾さえ定動詞形にすればこれらの名詞を削除しても話者の態度以外に変化なく文が成立すると言いうるが、（19）についてはどうか。ただし通常の名詞を項に取る「～が好きだ」という構文で名詞項に与位格が現れるのとは区別してもよいだろう。（18）~（20）についてはその否定形として -tii（-tie）の代わりに否定の uwei を付すことで「必要ない」「嫌いだ」「つもりはない」といった表現が可能であると思われる（ただし用例を得ていない）。

しかしこれらの表現は他の方言において確認されていない。おそらくハイラル方言におけるこれらの表現はモンゴル語からの影響によって用いられるようになったもので、本来のダグール語では人魚構文はあまり用いられないのかもしれない。ブトハ方言について見られる若干の例を以下に挙げる。

（22）*albei* *bait-aa* *saiken* *akenbuu-gu* *giaan-tii*

mission work-REFL well to.complete-PTCP necessary-PROP

任務はきちんと全うせねばならない 恩和巴图编（1988: 417）

（23）*nek* *sar=č* *yaw-gu* *booljoon-wei*

one month=also to.go-PTCP certainty-NEG

一か月も行くのかもしれない 恩和巴图编（1988: 417）

チチハル方言などでは、el-ǰ san-ǰ+aa-wei {to.say-SIM to.think-SIM+to.be-NPST}「～とおもっている」などのような動詞的表現、kawoo「だろう」などのような終助詞的表現がよく用いられ、人魚構文は避けられるようである。ハイラル方言にはダグール語の古い言語現象が残されている可能性もあるが、この構文については周辺のモンゴル語諸方言などからの借用によって比較的新しく獲得された表現法であるように思われる。

3.5.3. 否定文

前節で見たようにモダリティ的な意味で用いられる人魚構文には方言によって使用の頻度が違う可能性があるが、動詞の否定形式に用いられる人魚構文はどの方言にも見られるものである。

モンゴル諸語では、動詞述語文において否定の意味を表す場合次の2種類の方法があると言える。すなわち否定の意味を表す語を動詞の前に置くという方法と、動詞の形動詞形に否定の意味の語を後続させる人魚構文型の方法である。モンゴル語ではもっぱら後者の方法が用いられる。

(24) *bi* *jawa-x=güi*
1SG to.go-FUT.PTCP=NEG
私は行かない

すなわち定動詞形には直接の否定形式が無く、対応する形動詞形にした後に否定の意味を表す語を後続させる。この語は名詞類に属するので、構造上は人魚構文と同じである。この用法で用いられる場合には否定語がある程度文法化が進んで接語的になっているため、一種の動詞の語尾のようなものとして捉えられうる。しかしなお名詞類的な性質を残している点で、筆者は人魚構文の一つとしてこれを扱う。

他方、ダグール語をはじめとするいくつかの言語では、前者の方法すなわち否定語を動詞の前に置くという方法を用いる。中古モンゴル語ではもっぱらこの方法が用いられ、現代モンゴル語でも古い文体の書き言葉や固定した決まり文句等で用いられることがある[11]。これは定動詞形で用いられるばかりでなく、形動詞形や副動詞形の動詞でも用いることができる。

(25) *yeekii=č* *kuiten* *aa-yieš* *ul* *ič-ies=mini* *ul* *bole-n.*
how=ever cold to.be-CONC NEG to.go-COND=1SG NEG to.become-NPST2 [12]
どんなに寒くても行かなければいけない 塩谷 (1991: 71)

恩和巴図編 (1988: 438) など、ダグール語では「現在形において ul、過去形において es」が否定副詞として用いられるなどの記述もあるが、こうした否定副詞を用いた否定表現がつかえる範囲はある程度限られているようである。まず第一に過去の形式 (動詞 -sen) では es という否定副詞が用いられる表現よりも、人魚構文型の否定が一般に用いられる。

---

11 例えば次の例の如し。ダグール語の ul は次のモンゴル語の例に見る ül に対応する形式である。
ex) *end* *tamxi* *tata-ǰ* *ül* *bol-no*
here tobacco to.draw-SIM NEG to.become-NPST
ここでタバコを吸ってはいけない (Ch. Dagvadorj, D. Byambaa.txt)

12 非過去 (NPST) の形式には -bei と -n の二種類があり、後者は基本的に否定文で現われる。形式の違いを示すため、後者については NPST2 というグロスを振る。

（26）*ene ert bey-mini dembel amer-sen uwei*
this morning body-1SG very to.rest-PERF NEG
今朝は体があまり休まらなかった 塩谷（1991: 69）

また、「まだ～していない」という表現では未来形動詞形＋ udien という人魚構文型の形式が用いられる。

（27）*kuu-d eil-gu udien=bie*
person-DAT to.marry-PTCP not.yet=1SG
人にまだ嫁いでいません 塩谷（1991: 57）

こうした「～しなかった」「～していない」について ul を用いた否定表現と異なる構文が用いられるのはテンスやアスペクトの違いから説明ができるかもしれないが、いわゆる現在形のような形式についても人魚構文型の否定表現が用いられることがある。未来形動詞形＋ uwei の形で現れる。

（28）*namd bei, tiimer aa-yieš bii čieeyaa edee haane tali-sn-aa*
1SG.DAT exist such.so to.be-CONC 1SG tea.leaf now where to.put-PERF-REFL
med-gu uwei=bie.
to.know-PTCP NEG=1SG
私には茶葉がありますが、今どこに置いたかわかりません 塩谷（1991: 53）

（28）は（15）と同じ質問票から得られたほぼ同内容の例文であるが、いずれにおいても人魚構文型の否定表現が現れている。次の例からわかるように、med「知る」という動詞だと常にこの人魚構文型の否定表現が用いられている、というわけではない。

（29）*ken-ii-g-ii ul mede-n=bie*
who-GEN-thing-GA NEG to.know-NPST2=1SG
誰のかわかりません 塩谷（1991: 50）

（30）*bii edee yoo=č kii-gu uwei aa-ǰ+aa-wei=bie*
1SG now what=ever to.do-PTCP NEG to.be-SIM+to.be-NPST=1SG
私は今何もしないでいる 塩谷（1991: 82）

（31）*amer-yaa gel-ǰ san-gu uwei aa-sen=baa.*
to.rest-VOL to.say-SIM to.think-PTCP NEG to.be-PERF=1PL
私たちは休もうと思わずにいた 塩谷（1991: 85）

4. おわりに

本稿ではダグール語の名詞述語の様相を見た。基本的な構造はモンゴル語などと変わらないが、コピュラとしての存在動詞の用法の違いや、名詞述語を焦点として表示する要素が用いられることがあることなどの違いも見出すことができる。人魚構文は一種の名詞述語文であると考えることができるが、モンゴル語と比べればダグール語では人魚構文があまり用いられない傾向にあると思われる。

存在動詞のコピュラとしての文法化の程度やその意味・用法の範囲については、モンゴル語族全体にも目を向けてダグール語の位置づけを考える必要がある。さらに名詞述語文の主語や述語の標示要素についてはモンゴル語における条件小辞との違いや、河西回廊地域のモンゴル語族に見られる漢語由来の形式との類似性についてもさらに検討する必要があるであろう。

〔参考文献〕

Dixon, R. M. W.（2010）*Basic Linguistic Theory.* Volume 2 Grammatical Topics. Oxford University Press.

恩和巴图等编（1984）『达斡尔语词汇』蒙古语族语言方言研究丛书005　呼和浩特市: 内蒙古人民出版社

_____等编（1985）『达斡尔语话语材料』蒙古语族语言方言研究丛书006　呼和浩特市: 内蒙古人民出版社

_____编（1988）『达斡尔语和蒙古语』蒙古语族语言方言研究丛书004　呼和浩特: 内蒙古人民出版社

橋本邦彦（2004）「モンゴル語のコピュラ構文の意味の類型」『室蘭工業大学紀要』54　pp91-100

影山太郎（2012）「属性叙述の文法的意義」影山太郎（編）『属性叙述の世界』pp3-35 東京: くろしお出版

益岡隆志（2016）「述語の類型と名詞文の構造」福田嘉一郎、建石始（編）『名詞類の文法』pp215-232 東京: くろしお出版

塩谷茂樹（1991）「ダグール語ハイラル方言の口語資料 ―テキストと注釈―」『日本モンゴル学会紀要』No.21（1990）pp47-95 東京: 日本モンゴル学会

角田太作（2011）「人魚構文：日本語学から一般言語学への貢献」『国立国語研究所論集』（NINJAL Research Papers）1: pp53-75

山田洋平（2016）「〈特集「情報構造と名詞述語文」〉ダグール語」『語学研究所論集』第21号. pp237-248. 東京外国語大学

山越康裕（2012）『詳しくわかるモンゴル語文法』東京: 白水社

Yu, Wonsoo. Kwon Jae-il. Choi Moon-Jeong. Shin Yong-kwon. Borjigin Bayarmend & Luvsandorj Bord (2010) *A Study of the Tacheng Dialect of the Dagur Language*. Seoul: Seoul National University Press.

SUMMARY

The purpose of this paper is to describe the nominal predicate of the Dagur language. The basic structure as well as nominal predicate sentence does not deviate from the Mongolic languages including Mongolian. We discuss a few defferences of lacking un-marked copula and using subject marking of nominal predicate clause. Further, although so-called mermaid-construction is attested in Hailar dialect of the Dagur language, they basically do not use this construction in other dialects.

付記

本研究は日本学術振興会科学研究費補助金（特別研究員奨励費）「モンゴル諸語東部グループの記述、比較研究」（課題番号15J06864）の助成を受けた研究成果の一部である。また本稿に対して懇切丁寧なご意見、ご提案を下さった2名の査読者に心より感謝申し上げたい。ただし当然のことながら本稿におけるいかなる誤謬や不足も筆者の責に帰せられるものである。